

C H A P T E R



AOMORI  
CAN-DOリスト

## 「CAN-DO リストの形での学習到達目標」作成の手引き

### 1 CAN-DO リストの形での学習到達目標とは？

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域ごとに、卒業時及び各学年修了時までには児童生徒に身に付けさせる能力を、学習指導要領の各領域の目標に基づき、「～することができる」の形で一覧表にしたものです。ここではその一覧表を「CAN-DO リスト」と表すことにします。

### 2 なぜ CAN-DO リストの作成が求められているのか？

「外国語(英語)」を用いて何ができるようになるか」というコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指した指導と評価をするためです。

「外国語(英語)を使って何ができるようになるか」という観点から、CAN-DO リストを作成します。教科書・教材、児童生徒の学習状況、授業時数等を踏まえながら、できるだけ分かりやすく設定し、その目標に到達するための指導方法を工夫・改善することが期待されています。

### 3 CAN-DO リストを作成することの効果とは？

教員と児童生徒がゴールを共有し、学習への見通しをもち、学習を評価する(振り返る)ことで主体的な学びを可能にします。

- (1) 「外国語(英語)を使って何ができるようになるのか」を明らかにすることができる。
- (2) 外国語(英語)の学習の「ゴール」が明確になる。
- (3) 文字、語彙、文構造等の知識を活用してコミュニケーションを図ることができる。
- (4) 教員間で共通理解を図りながら指導に当たることができる。
- (5) パフォーマンステストなどを活用することによって「外国語(英語)を用いて何ができるか」という観点から評価することができる。

### 4 CAN-DO リストの役割とは？

「ゴールを示すこと」と「そのゴールへの到達度を確認」する役割が求められます。

- (1) 「何ができる」ようになるかを知る—到達目標として
- (2) 「どれくらいできる」ようになるかを知る—自分の学びの位置を確認する判断基準として
- (3) 「できるようになる」ために自ら学習する—自律的な学習者を育てるため

### 5 CAN-DO リストの設定手順とその使い方は？

AOMORI CAN-DO リストを参考に自校版 CAN-DO リストを作成し、活用しましょう。

- (1) CAN-DO リストの目的を中学校区内の外国語(英語)担当教員等で共有します。
- (2) 児童生徒の学習の状況等を踏まえ、卒業時の学習到達目標を「～することができる」という形で、五つの領域ごとに記述します。この時、具体的な学習到達目標となるよう、数値目標を設定してもよいでしょう。
- (3) 卒業時の学習到達目標から、学年ごとの目標を「～することができる」という形で、五つの領域ごとに設定します。その上で各単元における目標を「～することができる」という形で記述し、主な学習活動、評価方法を計画します。
- (4) ペーパーテストに加え、面接、スピーチ、エッセーなどのパフォーマンス評価を活用します。
- (5) 各単元や学期、学年といった単位で学習到達目標の達成状況を把握し、必要に応じて指導方法を改善します。
- (6) 卒業時及び学年ごとの目標の適切さを検討し、必要に応じて見直します。

AOMORI CAN-DO リストや自校版 CAN-DO リストを活用し、児童生徒が自分の学びを振り返る、児童生徒用 CAN-DO リストを作成することもできます。





AOMORI CAN-DO リスト (小学校3・4年生)

4 学年修了時の学習到達目標

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。  
 (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝える力の素地を身に付けている。  
 (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

5 つの領域ごとの 4 学年修了時の学習到達目標

ア	ゆっくりはっきりはつきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ろうとする。		基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとする。	身の回りの物について、人前で実物を見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	ア	7
イ	ゆっくりはつきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味を分かろうとする。		自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。	自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	イ	1
ウ	文字の読み方が発音されるのを聞いた際にどの文字であるかを分かろうとする。		サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり質問に答えたりしようとする。	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。	ウ	4

学年	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	学年
小 4	<p>ア ゆっくりはつきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句(好きな色や食べ物、着ている服、持ち物など)を聞き取ろうとする。</p> <p>イ ゆっくりはつきりと話された際に、イラストや写真などを用いて、身近で簡単な事柄(よく知っている人や物など)に関する基本的な表現の意味を分かろうとする。</p> <p>ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかを分かろうとする。(大文字・小文字)</p>	<p>ア 相手に配慮しながら、基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとする。</p> <p>イ 相手に配慮した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、2～3語の文で答えたりして会話を続けようとする。</p>	<p>ア 身の回りの物(文房具、果物、飲み物など)について、人前で実物、イラスト、写真などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>イ 自分のこと(好きな場所、学校・教室など)について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄(曜日や時刻、場所など)について、人前でカレンダーなどの具体物を見せながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p>	<p>ア 動物、身体の一部、状態、気持ちなどについて、人前でイラスト、写真などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>イ 自分や友達の名前の頭文字について、人前でカードを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前でイラストや写真などを見せながら、自分の気持ちや考えなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p>		小 4
小 3	<p>ア 繰り返しはつきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句(好きな色や食べ物、着ている服、持ち物など)を聞き取ろうとする。</p> <p>イ 繰り返しはつきりと話された際に、話し手の顔の表情や身振り、イラストや写真などを用いて、身近で簡単な事柄(よく知っている人や物など)に関する基本的な表現の意味を分かろうとする。</p> <p>ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかを分かろうとする。(大文字)</p>	<p>ア 相手に伝わるように工夫した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。</p> <p>イ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、2～3語の文で答えたりしようとする。</p>	<p>ア 表情やジェスチャーを付けて相手に伝わるように工夫しながら、基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりしようとする。</p> <p>イ 相手に伝わるように工夫した上で、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、2～3語の文で答えたりしようとする。</p>	<p>ア 動物、身体の一部、状態、気持ちなどについて、人前でイラスト、写真などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>イ 自分や友達の名前の頭文字について、人前でカードを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前でイラストや写真などを見せながら、自分の気持ちや考えなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。</p>		小 3
評価方法	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード	授業における活動 ワークシート 振り返りカード		評価方法

☺ (自信あり!) から -- (もっと練習したい!) まで、色を塗るなどして、それぞれの目標をどれくらい達成できたか確認しよう。

## CAN-DO リスト活用例 ～单元ごとの CAN-DO リストを作成する場合～

- 1 教科書の单元を通して育てたい資質・能力を、AOMORI CAN-DO リストから選択する。

例) 教科書内容 → Blue Sky2 Unit4 My Future Dream

対応する CAN-DO リスト → 2 学年 話すこと [発表] イ

※教科書の单元でスピーチを扱っている場合、「話すこと [発表]」の力を育てることに適していると判断できる。

- 2 CAN-DO リストの下線部を教科書の題材などに変えて「单元目標」とする。

学年	話すこと [発表]
2	イ <u>日常的な話題</u> について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、聞き手の反応を確認しながら、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。 □□□□

例えば、Blue Sky2 の Unit4 であれば、My Future Dream を題材にしているため、下線部を「将来の夢」などに変更する。

- 3 育てたい資質・能力に応じて、具体的な活動場面を想定しながら文言を変更する。

必要に応じて言葉をつないだり、削除したり、「自分で調べた情報を基に」などの学習プロセスが分かる文言を入れたりすることなども考えられる。

＜文言を変更した单元目標例＞

学年	話すこと [発表]
2	イ <u>将来の夢</u> について、自分の考えや気持ちを整理し、理由を付けてまとまりのある内容を話すことができる。 □□□□

- 4 「单元目標」を観点別にまとめると評価規準（单元目標を実現できたと判断する児童生徒の具体的な姿を記述したもの）になる。

評価規準の習得状況の程度を示したものが評価基準となる。その際、数値や記号、条件等で採点の基準を設定する。評価基準は、ルーブリックと呼ばれる。

＜条件設定の考え方・例＞

- ・自分の考えや気持ちを整理→「将来の夢について興味・関心をもって取り組んでいることについて述べている」
- ・理由を付けて→「将来の夢についてその理由を述べている」
- ・まとまりのある内容→「opening-body-closing などの文章構成で述べている」

- 5 单元目標及び対応する CAN-DO リストを单元のスタートで児童生徒と共有する。

- 6 单元目標及び対応する CAN-DO リストの到達度を单元末に児童生徒と確認する。

到達できたと判断したら☑を書かせる。

～教科書内容ベース（单元ごと）の CAN-DO リスト例～

年間指導計画			CAN-DO リスト					評価方法
单元名	題材名	言語材料	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	
			【2学年終了時】 はっきりと話されれば、 <u>日常的な話題</u> について必要な情報を聞き取ったり、話の大きな内容を捉えることができる。	【2学年終了時】 日常的な話題について必要な情報を聞き取ったり、話の大きな内容を捉えることができる。	【2学年終了時】 自分の考えや気持ちについて即興で伝え合ったり、日常的な話題についてメモを活用しながらやり取りできる。	【2学年終了時】 自分の考えや気持ちについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して話すことができる。	【2学年終了時】 自分の考えや気持ちについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して書くことができる。	
Unit1	What is Hero?	There is/are] ~接続詞when 遠征旅行	はっきりと話されれば、ヒーローについて、大きな内容を捉えることができる。(イ)	簡単な語句や文で書かれたヒーローについての文章から、話の大きな内容を捉えることができる。(イ)	自分の好きなヒーローについて、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。(ア)	自分の考えをヒーローについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して話すことができる。(イ)	自分の考えをヒーローについて、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して書くことができる。(イ)	パフォーマンステスト【発表会】または動画録画
Let's Talk1	待ち合わせ	in front of next to behind between A and B	はっきりと話されれば、待ち合わせの対話文から、必要な情報を聞き取ることができる。(ア)	簡単な語句や文で書かれた待ち合わせに関する対話文から、必要な情報を読み取ることができる。(ア)	待ち合わせについて、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。(ア)			動画録画(カードを引き、条件に合うように話す。)
Unit2	Traveling Overseas	will+動原の否定形 be going to+動原の原形 助動詞must	はっきりと話されれば、海外旅行の対話文から、大きな内容を捉えることができる。(イ)	簡単な語句や文で書かれた海外旅行に関する対話文から、話の大きな内容を捉えることができる。(イ)	海外旅行について、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して伝えたり、相手からの質問に応答したりすることができる。(イ)	海外旅行について、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して話すことができる。(イ)	海外旅行について、メモを活用しながら、まとまりのある内容を整理して書くことができる。(イ)	パフォーマンステスト【発表会】または動画録画
Let's Talk2	旅行の準備	have to don't have to	はっきりと話されれば、旅行の準備の対話文から、必要な情報を聞き取ることができる。(ア)	簡単な語句や文で書かれた旅行に関する対話文から、必要な情報を読み取ることができる。(ア)	旅行に必要な物について、簡単な語句や文を用いて、即興で伝え合うことができる。(ア)			動画録画(カードを引き、条件に合うように話す。)

※黄色の枠内は、教科書内容から判断して、育成する資質・能力に適した領域。

## 参考資料

- ・文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）
- ・文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月）
- ・文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）
- ・文部科学省 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）
- ・文部科学省 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック（平成29年6月）
- ・文部科学省 Let's Try! 1
- ・文部科学省 Let's Try! 2
- ・青森県教育委員会 小学校外国語活動・外国語科 実践ハンドブック（平成31年3月）
- ・青森県教育委員会 中学校外国語科パフォーマンス評価実践ハンドブック（平成30年3月）
- ・啓林館 BLUE SKY English Course 123（令和2年版）
- ・東京書籍 NEW HORIZON English Course 123（令和2年版）
- ・三省堂 NEW CROWN English Series 123（令和2年版）
- ・光村図書 Here We Go English Course 123（令和2年版）
- ・札幌市教育委員会 令和2年度札幌市英語教育改善プラン 小・中・高等学校間の連携・接続を図る「札幌 CAN-DO スタンダード」活用ハンドブック（令和3年2月）
- ・瀧沢広人 実例でわかる！中学英語パフォーマンステスト&学習評価（令和3年10月）